

青年期結核症ニ關スル研究 (第3報)

第一編 BCG 非接種群ニ於ケル青年期結核症

(昭和 18 年 10 月 10 日受領)

東京鐵道局體力管理室(指導 岡治道博士)

千葉 保 之
所澤 政 夫

目 次

第九章 陽轉發見後始メテ見出シタ結核竈ノ發見時病側	第 1 節 肋膜炎發見時ニ於ケル諸他竈ノ有無
第十章 肺門淋巴腺腫脹發見ト諸他ノ病竈	第 2 節 肋膜炎發見側ト同伴セル諸他竈側
第十一章 初期變化群發見ト諸他ノ病竈	第十四章 肺尖結核竈發見ト諸他ノ病竈
第十二章 初期浸潤發見ト諸他ノ病竈	第 1 節 肺尖結核竈發見時ニ於ケル諸他竈ノ有無
第 1 節 初期浸潤發見時ニ於ケル諸他竈ノ有無	第 2 節 肺尖結核竈發見側ト同伴セル諸他竈側
第 2 節 初期浸潤發見側ト同伴セル諸他竈側	第十五章 結核性腹膜炎發見ト諸他ノ病竈
第十三章 肋膜炎發見ト諸他ノ病竈	小 括

第九章 陽轉發見後始メテ見出シタ結核竈ノ發見時病側

第 4 章ニ於テハ、陽轉發見後始メテ發見シタ結核竈ノ發見率ト病型ニ就イテ述ベタガ、本章ニテハ、其發見時病側ニ就イテ、左側、右側及ビ兩側ニ如何ナル頻度ニ發見サレルカヲ觀察シタモノデ、概略、次ノ成績ヲ得タ。

陽轉發見後始メテ發見シタ全病竈ニ就イテハ、最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 0—3 ヶ月ノ例ニ於テハ第 25 表ニ示ス様ニ、左側 107 例(發見全例ニ對シ 36%) 右側 179 例(60%) 兩側 11 例(4%) デ、即チ、右側ハ左側ニ較ベ著シク高率デアアル。陽轉發見迄 3 ヶ月以内ノモノ總數 1906 名ニ對シテハ、左側(6%) 右側 9% 兩側 1% デアツタ。コレ等病側比率間ノ差異ニ對スル有意性ヲ $\frac{M^2 - N}{\sqrt{m_1^2 + m_2^2}}$ ノ式ニ依ツテ檢討スルト、第 26 表ニ示ス如ク、發見全例ニ對スルモノハ、左側ト

右側トハソノ値 6.1 左側ト兩側 10.8 ヲ示シ、何レモ、有意デアアル。陽轉發見迄 3 ヶ月以内ノ者全數ニ對シテハ、亦同様ニ左側ト右側、左側ト兩側間ニ、有意性ヲ認メタ。即チ左側ハ、右側ニ較ベソノ發見率が低イコトハ統計學的ニモ有意デアアル。

次ニ、陽轉發見後始メテ發見シタ病竈ノ病型別ニ觀ルト、前掲第 25 表ニ觀ル如ク、陽轉ヲ 3 ヶ月以内ニ發見シタ例デハ、肺門淋巴腺腫至 78 例中、左側 26%、右側 73%、兩側 1% 初期變化群全 57 例中左側 40%、右側 60% 他ニ病竈ヲ認メナイ肋膜炎ニ於テハ左側 33%、右側 61%、兩側 6% ヲ示シ、何レモ、左側ハ右側ニ較ベ著シク低率デアアル、然ルニ、初期浸潤ノミニ於テハ事情ヲ異ニシ、左側、右側同率デ 47% デ、又、

第 25 表 陽轉發見後始メテ發見セル病竈側(其一)
(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 3 ヶ月以内ノ例)

發見時病側	肺門淋巴腺腫脹		初期變化群		初期浸潤	
	實數	検査人員ニ對スル%	實數	検査人員ニ對スル%	實數	検査人員ニ對スル%
左側	20	25.64±4.94 (1.05±0.23)	23	40.35±6.50 (1.21±0.25)	29	46.77±6.34 (1.52±0.28)
右側	57	73.08±5.02 (2.99±0.39)	34	59.65±6.50 (1.78±0.30)	29	46.77±6.34 (1.52±0.28)
兩側	1	1.28±1.28 (0.05±0.05)			4	6.45±3.12 (0.12±0.10)
計(検査人員)	78	100.0 (4.09±0.45)	57	100.0 (4.09±0.39)	62	100.0 (3.25±0.41)

肋膜炎							計	
他ニ病竈ナキモノ	肺門淋巴腺腫脹	初期變化群	初期浸潤	ソノ他	實數	検査人員ニ對スル%	實數	検査人員ニ對スル%
實數	検査人員ニ對スル%	實數	實數	實數	實數	實數	實數	検査人員ニ對スル%
28	33.33±5.14 (1.47±0.28)	4		3		107	36.0±2.79 (5.61±0.53)	
51	60.71±5.33 (2.68±0.37)	3	1	3	1	179	60.27±2.84 (9.39±0.67)	
5	5.95±2.58 (0.26±0.12)				1	11	3.70±1.10 (0.58±0.17)	
84	100.0 (4.40±0.47)	7	1	6	2	297	100.0 (15.58±0.83)	

註 1. () 内ハ最終陰性時ヨリ陽轉發見時迄ノ期間 0—3 ヶ月ノモノノ總數 1906 ニ對スル%
2. 發見時病型ハ陽轉發見時以後初メテ發見セル病竈ノ病型デアル

第 26 表 發見時病側比率間ノ差異(其一) (第 25 表ノ例)

病側比率間ノ差異		$M_1 - M_2$	有 意 性 無
		$\sqrt{m_1^2 + m_2^2}$	
肺内病竈總數ニ對スル各發見側比率間ノ差異	左側ト右側	6.1	有
	左側ト兩側	10.8	有
被檢陽轉者 1906 名ニ對スル各發見側比率間ノ差異	左側ト右側	4.7	有
	左側ト兩側	9.0	有

兩側 6%ヲ示シタ。即チ、初期浸潤ノ他ハ、左側ノ發見率低ク、又、兩側ニ發見シタ例ハ、各病型トモ、極メテ低率デ、雙極性ノ像ニハ遭遇シナカツタ。

最終陰性時カラ陽轉發見迄 12 ヶ月以内ノ全例ヲ同様ニ集計スルト、第 27 表ニ示ス如クデアルガ、ソノ關係ハ、3 ヶ月以内ノモノ才ノ第 25 表ト同様デアツタ。即チ、全發見例 511 例中、左側ハ 36%デ右側 60%ニ較ベ、矢張り著シク低

率デアル。兩側ハ、モトヨリ極メテ低ク 4%ノミ。12 ヶ月以内ノ全陽轉者 3745 名ニ對シテハ、左側 5%、右側 8%、兩側 1%ヲ示ス。

コレ等病側比率間ノ差異ヲ統計學的ニ檢討スルト第 28 表ニ觀ル如ク、左側ト右側トハソノ値 7.8 左側ト兩側 14.1 ヲ示シ、何レモ有意性ヲ認メタ。12 ヶ月以内ノ陽轉者ニ對スル比率ニ就イテモ、同様、有意デアル。即チ、左側ノ發見率ガ右側ヨリ低イコトニハ有意性ヲ認メル。

第 27 表 陽轉發見後始メテ發見セル病竈側(其二)
(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 0—12 ヶ月ノ例集計)

發見時病側	肺門淋巴腺腫脹		初期變化群		初期浸潤		肋膜炎		計	
	實數	検査人員＝對スル%	實數	検査人員＝對スル%	實數	検査人員＝對スル%	實數	検査人員＝對スル%	實數	検査人員＝對スル%
左側	29	22.31±3.65 (0.77±0.14)	43	41.35±4.83 (1.15±0.17)	67	48.55±4.25 (1.79±0.22)	46	33.09±3.99 (1.23±0.18)	185	36.20±2.13 (4.94±0.35)
右側	100	76.92±3.70 (2.67±0.26)	61	58.65±4.83 (1.63±0.21)	60	43.48±4.22 (1.60±0.21)	85	61.15±4.13 (2.27±0.24)	306	59.88±2.17 (8.17±0.45)
兩側	1	0.77±0.77 (0.03±0.03)			11	7.97±2.31 (0.29±0.09)	8	5.76±1.98 (0.21±0.07)	20	3.91±0.86 (0.53±0.12)
(計検査人員)	130	100.0 (3.47±0.30)	104	100.0 (2.78±0.27)	138	100.0 (3.68±0.31)	139	100.0 (3.71±0.31)	511	100.0 (13.64±0.56)

註 1. () 内ハ最終陰性時ヨリ陽轉發見時迄ノ期間 0—12 ヶ月ノモノ總數 3745 名ニ對スル%
2. 發見時病型ハ陽轉發見時以後始メテ發見セル病竈ノ病型テ且肋膜以外ノ病型ニツイテハ肋膜炎ヲ伴フ場合モ含ム

第 28 表 發見時病側比率間ノ差異(其二) (第 27 表ノ例)

病側比率間ノ差異	$\frac{M_1 - M_2}{\sqrt{m_1^2 + m_2^2}}$	有 意 性 無
肺内病竈總數ニ對スル各發見側比率間ノ差異	7.8	有
被檢陽轉者 3745 名ニ對スル各發見側比率間ノ差異	11.9	有

又、發見時病型別ニ觀ルト、前表 27 表ニ示ス如ク、肺門淋巴腺腫脹全 130 例中、左側 22% 右側 77% 兩側 1% デ、雙極性像(初期變化群)ヲ見タ 104 例ニ於テハ、左側 41% 右側 59% デアツテ、兩側例ハ無カツタ。初期浸潤 138 例ニ就テハ、左側 49% 右側 43%、兩側 8%、次ニ肋膜炎ニ就テハ、189 例中、左側 33% 右側 61% 兩側 6%

ヲ示シ、即チ、陽轉發見迄 3 ヶ月以内ノ例ト同様、肺門淋巴腺腫脹、初期變化群及ビ肋膜炎ニ於テハ、何レモ、左側ノ發見率ガ右側ニ較ベ著明ニ低イガ、初期浸潤例丈ハ、左右側ニ著差ヲ示サナカツタ。兩側例ハ各病型トモ極メテ低率デ、初期變化群像ニハ、亦遭遇シナカツタ。

第十章 肺門淋巴腺腫發見ト諸他ノ病竈

初感原發竈ヲ認メナイ肺門淋巴腺腫發見時ニ伴ハレル諸他ノ病竈ノ有無及ビ病側關係等ニ就イテ概觀スルト次ノ様デアル。

最終陰性時カラ陽轉發見迄 0—3 ヶ月ノ例デハ、第 29 表ニ示ス如ク、檢出肺門淋巴腺腫脹 85 例ノ中、發見時、諸他ノ病竈ヲ伴ハナイ例 92%、伴ツタ例 8% デ、前者ハ後者ニ較ベ極メテ高率デアル。又、諸他竈ヲ伴ハナイ例デモ、1 側ニアルモノガ大部分デ 91% 兩側ニアルモノ僅カ 1% ヲ示スニ過ギナイ。伴ハレタ病竈トシテハ、

肋膜炎(8%)ノミデソノ他ノ病竈ハ認メラレナカツタ。シカモ、ソノ肋膜炎ハ、何レモ肺門淋巴腺腫脹側ト同側ニ發見サレタ。

次ニ最終陰性時カラ陽轉發見迄 12 ヶ月以内ノモノヲスベテ一括集計スルト、第 30 表ニ示ス如ク、矢張り發見時諸他竈ヲ伴ハナイ場合(90%)ハ伴ツタ場合(10%)ニ較ベ著シク高率ヲ示ス。同伴サレタ病竈トシテハ、亦肋膜炎ノミデ、何レモ、肺門淋巴腺腫脹側ト同側ニ認メラレタ。陽轉發見迄 12 ヶ月ノ例ト 3 ヶ月ノ例ト較ベ、同

伴スル肋膜炎ハ、12ヶ月ノ例デ稍々多イ様ニ見
エルノハ、モトヨリ、陽轉發見迄ノ期間ガ長イ

第29表 肺門淋巴腺腫脹發見ト諸他ノ病竈(其一)
(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄0-3ヶ月ノ例)

諸他ノ病竈ノ有無 (肺門淋巴腺腫脹 發見時)	肺門淋巴腺腫脹		
	實 數	肺門淋巴腺腫脹全 數ニ對スル%	
諸竈ナ 他ヲイ ノ認 モ 病メ ノ	一 側	77	90.59±3.17
	兩 側	1	1.18±1.17
	小 計	78	91.76±2.98
諸認 ム ル 病 竈 ヲ	肋 同 側	7	8.24±2.98
	膜 他 側	0	
	炎 兩 側	0	
ソ ノ 他	ソ ノ 他	0	
	小 計	7	8.24±2.98
計		85	100.0
		(4.46±0.47)	

* ()内ハ最終陰性時ヨリ陽轉發見迄0-3ヶ月ノ者總數ニ對スル%

コトニ基因スルカモ知レナイガ併シ、ソノ差ニハ有意性ヲ認メ難イ。

何レニセヨ、肺門淋巴腺腫脹發見時ニハ、諸他竈ヲ伴ハナイ例ガ殆ンド大部分デ、同伴スル病竈トシテハ同側ニ肋膜炎ヲ認メタニ過ギナカツ

第十一 初期變化群發見ト諸他ノ病竈

初期變化群發見時諸他ノ病竈ヲ伴フ頻度等ニ就
イテ概述スルト次ノ様デアル。

第31表 初期變化群發見ト諸他ノ病竈(其一)
(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄0-3ヶ月ノ例)

諸他ノ病竈ノ有無 (初期變化群發見 時)	初 期 變 化 群		
	實 數	初期變化群全數 ニ對スル%	
諸竈ナ 他ヲイ ノ認 モ 病メ ノ	一 側	57	98.28±1.71
	兩 側	0	
	小 計	57	98.28±1.71
諸認 ム ル 病 竈 ヲ	肋 同 側	1	1.72±1.71
	膜 他 側	0	
	炎 兩 側	0	
ソ ノ 他	ソ ノ 他	0	
	小 計	1	1.72±1.71
計		58	100.0
		(3.04±0.39)	

* ()内ハ最終陰性時ヨリ陽轉發見迄0-3ヶ月ノ者總數ニ對スル%

第30表 肺門淋巴腺腫脹發見ト諸他ノ病竈(其二)
(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄0-12ヶ月ノ例集計)

諸他ノ病竈ノ有無 (肺門淋巴腺腫脹 發見時)	肺 門 淋 巴 腺 腫 脹		
	實 數	肺門淋巴腺腫脹全 數ニ對スル%	
諸竈ナ 他ヲイ ノ認 モ 病メ ノ	一 側	116	89.23±2.72
	兩 側	1	0.77±0.77
	小 計	117	90.00±2.63
諸 他 ノ 病 竈 ヲ 認	肋 同 側	13	10.00±2.63
	膜 他 側	0	
	炎 兩 側	0	
ソ ノ 他	ソ ノ 他	0	
	小 計	13	10.00±2.63
計		130	100.0
		(3.47±0.30)	

* ()内ハ最終陰性時ヨリ陽轉發見迄0-12ヶ月ノ者總數ニ對スル%

タ。尙、後章(第17章)ニ記載スル如ク、肺門淋巴腺腫脹ハ常ニ陽轉發見後始メテ發見サレル病竈デ即チ諸他ノ病竈ハ發見時伴フコトガアツテモ、ソレニ續發乃至後發シタ例ニハ未ダ遭遇シテ居ナイノデ、肺門淋巴腺腫脹發見側ノ左右別頻度ニ就イテハ、前章(第25表及ビ第27表)ニ示シタト全く同一關係ヲ示ス。

第32表 初期變化群發見ト諸他ノ病竈(其二)
(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄0-12ヶ月ノ例集計)

諸他ノ病竈ノ有無 (初期變化群發見 時)	初 期 變 化 群		
	實 數	初期變化群全數 ニ對スル%	
諸竈ナ 他ヲイ ノ認 モ 病メ ノ	一 側	98	94.23±2.29
	兩 側	0	
	小 計	98	94.23±2.29
諸 他 ノ 病 竈 ヲ 認	肋 同 側	6	5.77±2.29
	膜 他 側	0	
	炎 兩 側	0	
ソ ノ 他	ソ ノ 他	0	
	小 計	6	5.77±2.29
計		104	100.0
		(2.78±0.27)	

* ()内ハ最終陰性時ヨリ陽轉發見迄0-12ヶ月ノ者總數ニ對スル%

最終陰性時カラ陽轉發見迄0-3ヶ月ノ例デハ

第31表＝示ス如ク、檢出初期變化群58例中、發見時諸他竈ヲ伴ツタ例ハ僅カ2%デ、肺門淋巴腺腫脹ノ場合ト同、諸他竈ヲ伴ハナイ初期變化群ノミノ例ガ極メテ高率デアル(98%)。同伴シタ諸他竈トシテハ肋膜炎ノミ(2%)デ其他ハ認メズ且、ソノ肋膜炎ハスベテ初期變化群側ト同側ニ發見サレタ。

又、初期變化群ハ一側ニノミ見ラレ、兩側ニ發見シタ例ニハ未ダ遭遇シテ居ナイ。

陽轉發見迄12ヶ月以内ノ全例ヲ同様ニ一括集計スルト第32表ニ觀ル如ク、矢張り、發見時諸他竈ヲ伴ハナイ例ハ94%デ、伴ツタ例6%ニ較ベルト極メテ高率デアル。同伴サレタ諸他竈トシテハ亦、肋膜炎(6%)ノミデ、何レモ初

期變化群發見側ト同側ニ認メタ。陽轉發見迄3ヶ月以内ノ例ニ較べ、肋膜炎ヲ伴フ例ハ多イ様デアルガ、コレハ、モトヨリ發見迄ノ期間ガ長イコトニモ基因スルト思ハレル。併シ、ソノ差ハ勿論有意デアルトハ認メ難イ。

何レニセヨ、初期變化群ノミ發見サレル場合ガ殆ンド大部分デ、伴カニ同伴サレル其他ノ病竈トシテハ、同側ニ發見サレル肋膜炎ノミデアツタ。之等ノ傾向ハ、前章ノ肺門淋巴腺腫脹ノ場合ト同様デアル。尙、後章第18章ニ述ベル如ク、初期變化群モ、肺門淋巴腺腫脹ト同様、スベテ陽轉發見後始メテ發見サレル病竈ナノデ、其左右側別頻度ニ就イテハ第9章(第25表及ビ第27表)ト全ク同一デアル。

第十二章 初期浸潤發見ト諸他ノ病竈

陽轉發見後始メテ發見シタ病竈ノミニ就イテ、ナク、諸他ノ病竈ニ續發乃至後發シタ例モ含メテ、何レニセヨ、陽轉發見後、初期浸潤ヲ認メタ全例ニ就イテ、ソノ發見時、諸他ノ病竈ヲ伴フ頻度及ビソノ病側關係ヲ觀ルト概略次ノ成績ヲ得タ。

第1節 初期浸潤發見時ニ於ケル諸他竈ノ有無

初期浸潤發見時ニ、夫レ以外ニ如何ナル病竈ヲ伴ツテ居タカヲ考察スルニ、最終陰性時ヨリ陽轉發見迄0-3ヶ月ノ例デハ第33表ニ示ス様ニ、發見初期浸潤100例中、諸他竈ヲ伴ハナイモノ62例(62%)デアルガ、伴フモノハ38例(38%)デ、即チ、初期浸潤ノミヲ見ル場合、遙カニ多イ。シカモ、ソノ中、一側ノミニ發見サレタモノハ58例(58%)デ、兩側ノモノ4例(4%)ニ較ベルト極メテ高率デアル。初期浸潤ニ伴ハレタ病竈トシテハ、肺門淋巴腺腫脹及ビ肋膜炎尙レモ同數ノ18例(18%)デ、肋膜炎竝ビニ肺門淋巴腺腫脹及ビ其他(肺外結核)各1例(1%)デアツタ。

陽轉發見迄12ヶ月以内ノモノヲ一括シテ同様

第33表 初期浸潤發見ト諸他ノ病竈(其一)
(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄0-3ヶ月ノ例)

諸他ノ病竈ノ有無		初 期 浸 潤	
(初期浸潤發見時)		實 數	初期浸潤全數ニ對スル%
諸他ノ病竈ヲ認ムルモノ	一 側	58	58.00±4.94
	兩 側	4	4.00±1.96
	小 計	62	62.00±4.85
諸他ノ病竈ヲ認ムルモノ	肺門淋巴腺腫脹	18	18.00±3.84
	肺門淋巴腺腫脹 + 肋膜炎	1	1.00±0.99
	肋 膜 炎	18	18.00±3.84
	ソ ノ 他	1	1.00±0.99
	小 計	38	38.00±4.85
計		100	100.0
		*(5.22±0.51)	

* ()内ハ最終陰性時ヨリ陽轉發見迄0-3ヶ月ノ者總數ニ對スル%

ニ集計シテモ、第34表ニ觀ル如ク、全180例ニ對シ、諸他ノ病竈ヲ認メヌ例ハ67%デ諸他竈ヲ伴フ例33%ニ較ベルト、矢張り高率デアル。初期浸潤ノミノ例中、一側ニアルモノ62%兩側6%デ此場合モ前者ガ甚ダ高率デアル。初期浸潤ニ伴ハレタ病竈トシテハ、肺門淋巴腺腫脹

11%肺門淋巴腺腫脹並ビ＝肋膜炎 1%肋膜炎 21%ソノ他 1%デ、陽轉發見迄 3ヶ月以内ノ例ニ較ベ肋膜炎ノ多イ傾向ハ、亦、陽轉發見迄ノ検査期間ガ長カツタコトニモ因ルト考ヘラレル然シ、何レニセヨ、初期浸潤ノミデシカモ一側ニノミ發見サレル例ハ極メテ多イコトハ、同様デアル。

第 34 表 初期浸潤發見ト諸他ノ病竈(其二)
(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 0—12ヶ月ノ例集計)

諸他ノ病竈ノ有無		初 期 浸 潤	
(初期浸潤發見時)		實 數	初期浸潤全數ニ對スル%
諸竈ナ 他ヲイ ノ認 病メノ	一 側	111	61.67±3.62
	兩 側	10	5.56±1.71
	小 計	121	67.22±3.50
諸他ノ 病竈ヲ 認ムル モノ	肺門淋巴腺腫脹	19	10.56±2.29
	肺門淋巴腺腫脹 + 肋膜炎	2	1.11±0.78
	肋 膜 炎	37	20.56±3.01
	ソノ 他	1	0.56±0.56
小 計		59	32.78±3.50
計		180	100.0

* () 内ハ最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 0—12ヶ月ノ者總數ニ對スル%

第 2 節 初期浸潤發見側ト同伴セル諸他竈側
第 1 節ノ初期浸潤ニ伴ハレタ其他ノ肺内病竈ヲ病側關係ニ就テ觀察シテミタ。

最終陰性時カラ陽轉發見迄 3ヶ月以内ノ例デハ、第 35 表ニ示ス様ニ、初期浸潤發見側ト同側ニ認メタモノ 62%デアツテ、他側ニ認メタモノ 22%ニ較ベルト甚ダ高率デアル。兩側ニ認メタ例ハ 16%デ極メテ低率ヲ示ス。

陽轉發見迄ノ期間ヲ 12ヶ月以内ノモノトシテ、

第十三章 肋膜炎發見ト諸他ノ病竈

前章ニ於ケルガ如ク、陽轉發見後初メテノ病竈デアルト否トニ拘ラズ、兎ニ角、陽轉發見後ノ肋膜炎發見ニ際シ、肋膜炎以外ニ諸他竈ヲ伴フ頻度及ビ同伴セル諸他ノ病竈ノ病側關係ヲ觀察

第 35 表 初期浸潤發見側ト諸他ノ病竈側(其一)
(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 3ヶ月以内ノ例)

同伴セル諸他竈側ニ對シテ	同伴セル諸他竈側ニ對シテ	肺門淋巴腺腫	肺門淋巴腺腫 + 肋膜炎	肋膜炎	計	
					實數	全數ニ對スル%
初期浸潤發見側	同 側	2	1	10	23	62.16±7.97
	他 側	5		3	8	21.62±6.77
	兩 側	1		5	6	16.22±6.06
計		18	1	18	37	100.0

註 諸他竈ハスベテ初期浸潤發見時同伴セルモノナリ

第 36 表 初期浸潤發見側ト諸他ノ病竈側(其二)
(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 12ヶ月以内ノ例集計)

同伴セル諸他竈側ニ對シテ	同伴セル諸他竈側ニ對シテ	肺門淋巴腺腫	肺門淋巴腺腫 + 肋膜炎	肋膜炎	計	
					實數	全數ニ對スル%
初期浸潤發見側	同 側	13	2	22	37	63.79±6.31
	他 側	5		7	12	20.69±5.32
	兩 側	1		8	9	15.52±4.75
計		19	2	37	58	100.0

註 諸他竈ハスベテ初期浸潤發見時同伴セルモノナリ

ソノ全例ヲ集計スルト 第 36 表ニ示ス様ヲ矢張り、同側例 64%ニ對シ、他側例 21%デ、前者ハ極メテ高率デアル。又、兩側ニ在ルモノハ 16%デ此レモ前 35 表ト殆ンド同率デアツタ。即チ、陽轉發見迄ケ 3月以内ニ限ツテモ、更ニ間隔ヲ延バシテ 12ヶ月以内トシテモ、同側例ハ甚ダ多數ヲ占メル、

シダ。但シ、茲ニ言フ肋膜炎トハ臨牀的症狀丈デナク、X線検査ノミニ肋膜炎ノ現シタモノヲモ含ミ、且、肋膜炎發症前ノ X線寫眞ニハ何等ソノ陰影ヲ認メ得ナカツタ症例ノミヲ取扱ツ

タ。即チ、可及的試験穿刺ヲ行ツテ診定シタガ、自覺症及ビ理學的症狀ガ肋膜炎ニ類似シテモ、試験穿刺及ビX線寫眞ニ肋膜炎ヲ想定セシメル所見ヲ得ナカツタモノハ除外シタ。

第 1 節 肋膜炎發見時ニ於ケル諸他竈ノ有無
肋膜炎發見ニ際シ、肋膜炎以外ノ諸他竈ノ有無ニ就イテ觀ルト、最終陰性時カラ陽轉發見迄 3 ヶ月以内ノ例デハ、第 37 表ニ示ス如ク、諸他竈ヲ伴ハナイモノ 84 例、發見肋膜炎全 131 例ニ對

第 37 表 肋膜炎發見ト諸他ノ病竈(其一)
(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 0—3 ヶ月ノ例)

諸他ノ病竈ノ有無 (肋膜炎發見時)		肋 膜 炎	
		實 數	全數ニ對スル %
諸他 ノ 病 竈 ヲ 認 ム ル ノ モ ノ	一 側	81	61.83±4.25
	兩 側	3	2.29±1.31
	小 計	84	64.12±4.19
諸他 ノ 病 竈 ヲ 認 ム ル ノ モ ノ	肺門淋巴腺腫脹	19	14.50±3.08
	初期變化群	12	9.16±2.53
	初期浸潤	12	9.16±2.53
	ソノ他	4	3.05±1.51
	小 計	47	35.88±4.19
計		131 (6.87±0.58)	100.0

* () 内ハ最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 0—3 ヶ月ノ者總數ニ對スル%

第 38 表 肋膜炎發見ト諸他ノ病竈(其二)
(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 0—12 ヶ月ノ例集計)

諸他ノ病竈ノ有無 (肋膜炎發見時)		肋 膜 炎	
		實 數	全數ニ對スル %
諸他 ノ 病 竈 ヲ 認 ム ル ノ モ ノ	一 側	132	61.97±3.33
	兩 側	5	2.35±1.04
	小 計	137	64.32±3.28
諸他 ノ 病 竈 ヲ 認 ム ル ノ モ ノ	肺門淋巴腺腫脹	27	12.68±2.28
	初期變化群	22	10.33±2.09
	初期浸潤	22	10.33±2.09
	ソノ他	5	2.35±1.04
	小 計	76	35.68±3.28
計		213 (5.69±0.38)	100.0

* () 内ハ最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 0—12 ヶ月ノ者總數ニ對スル%

シ 64%ヲ示シタガ、諸他竈ヲ伴ツタモノ 47 例、全例ニ對シ 36% デ、初期浸潤ト同様、其他ノ病竈ヲ伴ハズシテ特發スル場合ガ、著シク多クツタ。コノ肋膜炎ノミノ例ニ就イテハ、亦、一側ニアルモノ 62%ニ對シ、兩側ニアルモノ、2%デ、モトヨリ前者ガ極メテ高イ率ヲ示ス。肋膜炎ニ同伴スル病竈トシテハ、全 131 例ニ對シ、肺門淋巴腺腫脹 15% 初期變化群 9% 初期浸潤モ同様 9%デ、ソノ他ハ僅カニ 3%ヲ占メタノミ。次ニ、12 ヶ月以内ニ陽轉ヲ發見シタ例ヲ一括集計スルト、第 38 表ニ示シタ如ク、諸他ノ病竈ヲ伴ハナイモノ 64%、伴ツタモノ 36%デ、肋膜炎ノミヲ發見スル場合ハ、矢張り、著シク高率ナル。ソノ中デモ、一側ニ見ルモノハ 62%デ、兩側ノ 2%ニ較ベ甚ダ多イ。肋膜炎ニ伴ハレタ諸他竈ニ就イテモ、肺門淋巴腺腫脹 13%、初期變化群 10%、初期浸潤亦 10% デソノ他ハ 2%ノ少数ナル。

何レニセヨ、陽轉發見迄 3 ヶ月以ノモノニ限ツテモ、12 ヶ月以内トシテモ、同様デ、即チ、肋膜炎ノミ、シカモ一側ニ發見スル場合ハ極メテ多イ。此關係ハ初期浸潤トソノ軌ヲ一ニスル。

第 2 節 肋膜炎發見側ト同伴セル諸他竈側前節ノ肋膜炎ニ伴ツタ諸他ノ肺内病竈ヲ、病側關係ニ就イテ觀ルト、次ノ様ナル。最終陰性時カラ陽轉發見迄 3 ヶ月以内ノ例デハ、第 39 表ニ示ス様デ、肋膜炎發見側ト同側ニ認メタモノ 41 例 (95%)ニ對シ、他側ニ認メタモノ僅カ 1 例 (2%)デ、同側例極メテ高率ナル。兩側ニ認メタモノハ、他側例ト同様 1 例 (2%)デ甚ダ少イ、

次ニ陽轉發見迄 12 ヶ月以内ノ全例ニ就キ同様ニ集計スルト、第 40 表ニ觀ル如ク、同側例ハ 92%デ、矢張り、他側 4 例%ニ較ベルト壓倒的ニ高率ナル。兩側例ハ他側例ト同様 4%ノ低率ヲ示シタ。即チ、陽轉發見迄ノ検査期間ヲ 3 ヶ月以内トシテモ、12 ヶ月以内ニ延バシテモ、全ク同様デ、同側例ガ 9 割以上ノ多數ヲ占メタ。

第 39 表 肋膜炎發見側ト諸他ノ病竈側(其一)
(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 3 ヶ月以内ノ例)

同伴セルモノ諸他病竈側ニシテ	肺門淋巴腺腫	初期變化群	初期浸潤	計		
				實數	全數ニ對スル%	
肋膜炎發見側	同側	18	11	12	41	98.35±3.21
	他側		1		1	2.33±2.30
	兩側	1			1	2.33±2.30
計	19	12	12	43	100.0	

註 諸他竈ハスペテ肋膜炎發見時同伴セルモノナリ

第 40 表 肋膜炎發見側ト諸他ノ病竈側(其二)
(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 12 ヶ月以内ノ例集計)

同伴セルモノ諸他病竈側ニシテ	肺門淋巴腺腫	初期變化群	初期浸潤	計		
				實數	全數ニ對スル%	
肋膜炎發見側	同側	26	20	19	65	91.55±3.33
	他側		1	2	3	4.23±2.39
	兩側	1	1	1	3	4.23±2.39
計	27	22	22	71	100.0	

註 諸他竈ハスペテ肋膜炎發見時同伴セルモノナリ

第十四章 肺尖結核竈發見ト諸他ノ病竈

第 4 章ニ述ベタ如ク、陽轉發見後毎 3 ヶ月毎ノ精密檢診ヲ行ヒ、觀察期間 2 年以内ノ例ニ就イテ、肺尖結核發見ニ際シ、諸他ノ病竈トノ關係ヲ考察スルト、概略次ノ様デアル。尙、肺尖ハ、第 6 胸椎ノ高サニ X 線管球焦點ヲ置キ 1.5—2.0m ノ距離デ直接大撮影シタ寫眞ニ於テ鎖骨ヨリ上ノ肺野ヲ之ト見做シタ。

第 1 節 肺尖結核竈發見時ニ於ケル諸他竈ノ有無

肺尖ニ結核竈ヲ發見シタ時、ソレニ同伴スル諸他竈ノ有無ヲ觀ルト、最終陰性時カラ陽轉發見迄 0—3 ヶ月ノ例デハ、第 41 表ニ示ス如ク、肺尖ノミノモノハ 7 例デ發見肺尖結核全 46 例ニ對シ、僅カニ 13% ヲ占メタニ過ギナカツタガ、兎ニ角、此發見ハ注目ニ値スル。又、コノ肺尖ノミノ例ニ就イテハ、一側ニ發見シタモノハ全 46 例ニ對シ 11% ヲ占メ、兩側ニアルモノ (2%) ニ較ベルト高率デアル。諸他竈ヲ伴ツタモノハ、87% デモトヨリ極メテ多數ヲ占メタ。肺尖竈ニ同伴シタ諸他竈トシテハ、肺門淋巴腺腫 15% 初期變化群 (肺尖ヲ含マズ) 21% 初期浸潤 (肺尖ヲ含マズ) 45% 肋膜炎 6% ヲ示シ、他肺野ノ初期浸潤ヲ伴フモノガ多イ。併シ要スルニ、X 線檢査ノミカラ觀ルト、後章 (第 21 章) ニモ

述ブル如ク、極メテ早期ニモ、數ハ少イガ、肺尖ノミニ病竈ノ現ハレルコトガアルヲ知ツタ。

次ニ陽轉發見迄 12 ヶ月以内ノモノ全例ヲ同様ニ集計スルト、第 42 表ニ觀ル如ク、肺尖ノミノ例ハ全 92 例ニ對シ 15% ヲ占メ、ソノ内、一

第 41 表 肺尖結核竈發見ト諸他ノ病竈(其一)
(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 0—3 ヶ月ノ例)

諸他ノ病竈ノ有無	肺 尖 結 核		
	實 數	全數ニ對スル%	
(肺尖結核發見時)	一側	6	11.32±4.35
	兩側	1	1.89±1.87
	小計	7	13.21±4.65
諸他ノ病竈ヲ認ムルモノ	肺門淋巴腺腫	8	15.09±4.92
	初期變化群 (肺尖ヲ含マズ)	11	20.75±5.57
	初期浸潤 (肺尖ヲ含マズ)	24	45.28±6.84
	肋膜炎	3	5.66±3.17
	ソノ他	0	
小計	46	86.79±4.65	
計	53	100.0	

* () 内ハ最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 0—3 ヶ月ノ者總數ニ對スル%。

註 諸他竈ノ病型中肋膜炎以外ノ肺内病型ハ肋膜炎ヲ伴フ場合ニ含ム

第 42 表 肺尖結核發見ト諸他ノ病竈(其二)
(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 0—12 ヶ月ノ例集計)

諸他ノ病竈ノ有無		肺 尖 結 核	
(肺尖結核發見時)		實 數	全數ニ對スル %
諸竈ナシ	一 側	12	13.04±3.51
他ノ病竈	兩 側	2	2.17±1.52
病メノ	小 計	14	15.22±3.75
諸他ノ病竈ヲ認ムルモノ	肺門淋巴腺腫脹	11	11.96±3.38
	初期變化群(肺尖ヲ含マズ)	15	16.30±3.85
	初期浸潤(肺尖ヲ含マズ)	42	45.65±5.19
	肋膜炎	10	10.87±3.25
	ソノ他	0	
	小 計	78	84.78±3.75
	計	92	100.0

* () 内ハ最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 0—12 ヶ月ノ者總數ニ對スル%

註 諸他竈ノ病型中肋膜炎以外ノ肺内病型ハ肋膜炎ヲ伴フ場合モ含ム

側ニアルモノ 13%、兩側ニアルモノ僅カニ 2%ヲ示シタ。諸他竈ヲ伴ツタ肺尖結核竈ハ 85%デ、内、肺門淋巴腺腫脹 12%、初期變化群 16%、初期浸潤 46%、肋膜炎 11% デ矢張り他肺野ニ初期浸潤ヲ伴フ例ハ比較的多イ。併シ、何レニセヨ、15%附近ノ率ニ、肺尖ノミノ症例ガ現レテ居ル。之ヲ通覽スルト、陽轉ヲ 3 ヶ月以内ニ見出シタモノ丈ニ就イテモ、更ニ間隔ガ 4—12 ヶ月ニ及ンデ居ルモノヲ含メテモ、其肺尖症ノミノ例ハ 13—15%デ大差ヲ見出シ得ナイ。勿論、諸他ノ病竈ヲ同伴スルモノニ較ベルト少數デハアルガ、感染早期ニ此程度ノ症例ガ一割近ク存在シ得ルコトヲ確メ得タト思ヒ、興味アルコトニ感ジタ。

第 2 節 肺尖結核發見側ト同伴セル諸他竈側前節ノ肺尖結核發見時ニ同伴セル諸他ノ病竈ガ如何ナル病側關係ヲ示スカヲ觀察シタ。最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 0—3 ヶ月ノ例丈デハ、第 43 表ニ示ス様ニ、諸他竈ヲ肺尖結核發見側ト同側ニ見出シタモノ 39 例 (85%)、反對側ニ見出シタモノ 2 例 (4%)、兩側ニ 5 例 (11%)

ヲ示シ、即チ、同側例ハ極メテ多數ヲ占メタ。

第 43 表 肺尖結核發見側ト諸他ノ病竈側
(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 0—3 ヶ月以内ノ例)

同伴セル諸他竈側ニ對シテ	同伴セル諸他竈側ニ對シテ	肺門淋巴腺腫	初期變化群(肺尖ヲ含マズ)	初期浸潤(肺尖ヲ含マズ)	肋膜炎	計	
						實數	全數ニ對スル %
肺發尖見核側	同 側	7	8	21	3	39	84.78±5.30
	他 側		1	1		2	4.35±3.01
	兩 側	1	2	2		5	10.87±4.59
	計	8	11	24	3	46	100.0

註 1. 同伴セル諸他竈ノ病型中、肋膜炎以外ノ病型ハ肋膜炎ヲ伴フ場合モ含ム
2. 諸他竈ハスベテ肺尖結核發見時同伴セルモノナリ

第 44 表 肺尖結核發見側ト諸他ノ病竈側
(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 12 ヶ月以内ノ例集計)

同伴セル諸他竈側ニ對シテ	同伴セル諸他竈側ニ對シテ	肺門淋巴腺腫	初期變化群(肺尖ヲ含マズ)	初期浸潤(肺尖ヲ含マズ)	肋膜炎	計	
						實數	全數ニ對スル %
肺發尖見核側	同 側	9	12	37	7	65	83.33±4.22
	他 側		1	1	3	5	6.41±2.77
	兩 側	2	2	4	0	8	10.26±3.44
	計	11	15	42	10	78	100.0

註 1. 同伴セル諸他竈ノ病型中肋膜炎以外ノ病型ハ肋膜炎ヲ伴フ場合モ含ム
2. 諸他竈ハスベテ肺尖結核發見時同伴セルモノナリ

陽轉發見迄 12 ヶ月以内ノ全例ヲ一括スルト、第 44 表ニ觀ル如ク、同側例ハ 83%、他側例 6%、兩側例 10% デ、矢張り 3 ヶ月以内ノ例丈ノモノト同様、同側例ハ甚ダ高イ率ヲ示シタ。次ニ、肺尖結核發見側ヲ左右側別ニ觀ルト陽轉發見迄 3 ヶ月以内ノモノデハ、先ヅ第 45 表 Fニ於テ、左側 47%、右側 42%デ、ソノ間大差ナイヲ看取スル。更ニ、同表 A B C Dニ於テハ、

左右側別ノ各病型ガ、肺尖結核發見時ニソレト同伴スル頻度ヲ觀テモノデ、各病型トモニ、同側ニ肺尖竈ヲ伴フ場合ガ多ク、諸他竈全例ニ就イテハ、同表 E12 ニ示ス如ク、左側病竈中左側肺尖ニ病竈ヲ發見スル場合ハ 17% デアルガ、反對ノ右側ニハ見出サズ、右側病竈中テハ、右側肺尖ニ 10% 左側ニ 1% ヲ發見シタ。陽轉發見迄 12 ヶ月以内ノモノヲ一括集計スルト第 46 表ニ示ス如クデ、諸他竈全例(同 E 表)ニ就イテ

ハ、左側病竈中、同側ノ左側肺尖ニ病竈ヲ發見シタモノ 17% 反對側ノ右側肺尖ニハ僅カ 1% 又、右側竈ニ於テハ、右側肺尖ニ 10%、左側肺尖ニ僅カ 1% デ、何レモ同側例ガ甚ダ多イ。コノ關係ハモトヨリ各病型ニ就イテモ同様デアル(同 A B C D 表)

要スルニ 45. 46 表ヲ通覽スルト肺尖竈ガ諸他ノ病變ト同側ニ現レル率ガ著シク多イコト丈ハ確實ニ言ヘルト思フ。

第 45 表 肺尖結核竈發見側ト諸他ノ病竈 (左右側別其一)
(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 3 ヶ月ノ例)

A 肺門淋巴腺腫脹

病 竈 側		肺 門 淋 巴 腺 側		
		左 側	右 側	兩 側
肺 尖 側	左 側	2		
	右 側		4	1
	兩 側	1		
肺門淋巴腺全例		24	60	1

C 初期浸潤(肺尖ヲ含マズ)

病 竈 側		初 期 浸 潤 側		
		左 側	右 側	兩 側
肺 尖 側	左 側	10	1	1
	右 側		9	1
	兩 側		1	1
初期浸潤全例		29	29	3

B 初期變化群

病 竈 側		初 期 變 化 群 側		
		左 側	右 側	兩 側
肺 尖 側	左 側	5	1	
	右 側		3	
	兩 側	1	1	
初期變化群全例		23	35	

D 肋膜炎

病 竈 側		肋 膜 炎 側		
		左 側	右 側	兩 側
肺 尖 側	左 側	1		1
	右 側		1	
	兩 側			
肋膜炎全例		28	52	6

E 諸 他 竈 全 例

病 竈 側		全 諸 他 竈 側							
		左 側		右 側		兩 側		計	
		實數	諸他竈全例ニ對スル%	實數	諸他竈全例ニ對スル%	實數	諸他竈全例ニ對スル%	實數	諸他竈全例ニ對スル%
肺 尖 側	左 側	18	17.31±3.71	2	1.14±0.80	2	20.00±12.65	22	7.59±1.56
	右 側			17	9.66±2.23	2	20.00±12.65	19	6.55±1.45
	兩 側	2	1.92±1.35	2	1.14±0.80	1	10.00±15.49	5	1.72±0.76
	小 計	20	19.23±3.62	21	11.93±2.44	5	50.00±15.81	46	15.86±2.15
諸他竈全例		104	100.0	176	100.0	10	100.0	290	100.0

F 諸他竈ノ有無別

諸他竈ノ有無		諸他竈ヲ認ムルモノ		諸他竈ヲ認メザルモノ		計	
		實數	肺尖結核全例ニ對スル%	實數	實數	肺尖結核全例ニ對スル%	
肺尖結構 發見側	左側	22	47.83±7.37	3	25	47.17±6.86	
	右側	19	41.30±7.26	3	22	41.51±6.77	
	兩側	5	10.87±4.59	1	6	11.32±4.35	
	計	46	100.0	7	53	100.0	

註 諸他竈ハスペテ肺尖結核發見時ノモノデ、且肋膜炎以外ノ病型ハ肋膜炎ヲ伴フ場合モ含ム

第 46 表 肺尖結核竈發見側ト諸他ノ病竈 (左右側別其二)

(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄 12 ヶ月ノ例集計)

A 肺門淋巴腺腫脹

病竈側		肺門淋巴腺側		
		左側	右側	兩側
肺尖側	左側	2		
	右側		6	1
	兩側	2		
肺門淋巴腺全例		29	100	1

C 初期浸潤肺(尖ヲ含マズ)

病竈側		初期浸潤側		
		左側	右側	兩側
肺尖側	左側	18	1	1
	右側		15	3
	兩側		1	3
初期浸潤全例		61	54	9

B 初期變化群

病竈側		初期變化群側		
		左側	右側	兩側
肺尖側	左側	8	1	
	右側		4	
	兩側	1	1	
初期變化群全例		43	61	0

D 肋膜炎

病竈側		肋膜炎側		
		左側	右側	兩側
肺尖側	左側	2	1	1
	右側	2	4	
	兩側			
肋膜炎全例		46	85	8

E 諸他竈全例

病竈側		全 諸 他 竈 側							
		左側		右側		兩側		計	
		實數	諸他竈全例ニ對スル%	實數	諸他竈全例ニ對スル%	實數	諸他竈全例ニ對スル%	實數	諸他竈全例ニ對スル%
肺尖側	左側	30	16.76±2.79	3	1.00±0.57	2	11.11±7.41	35	7.04±1.15
	右側	2	1.12±0.79	29	9.67±1.71	4	22.22±9.80	35	7.04±1.15
	兩側	3	1.68±0.96	2	0.67±0.47	3	16.67±8.78	8	1.61±0.56
	小計	35	19.55±2.56	34	11.38±1.83	9	47.37±11.45	78	15.69±1.63
諸他竈全例		179	100.0	300	100.0	18	100.0	497	100.0

F 諸他竈ノ有無別

諸他竈ノ有無		諸他竈ヲ認ムルモノ		諸他竈ヲ認メザルモノ		計
		實 數	肺尖結核全例ニ對スル%	實 數	實 數	
肺尖結核	左 側	35	44.87±5.63	6	41	44.57±5.18
	右 側	35	44.87±5.63	6	41	44.57±5.18
	兩 側	8	10.26±3.44	2	10	10.87±3.25
計		78	100.0	14	92	100.0

註 諸他竈ハスベテ肺尖結核發見時ノモノデ、且肋膜炎以外ノ病型ハ肋膜炎ヲ伴フ場合ニ含ム

第十五章 結核性腹膜炎發見ト諸他ノ病竈

陽轉發見後認メラレタ結核性腹膜炎ニ就イテ、其發見時同伴スル諸他竈トノ關係ヲ觀ルト、次ノ様デアルガ、モトヨリ、發見例ハ未ダ少イノデ、續報ニ於テ更ニ補遺スル考ヘデアル。

最終陰性時カラ陽轉發見迄3ヶ月以内ノ例ニ就イテハ、發見例17例デ、コノ中、發見時、諸他竈ヲ伴ツタモノ14例(82%)、腹膜炎ノミノモノ

3例(18%)ヲ示シ、前者ガ著シク多イ。同伴シタ病竈トシテハ、肋膜炎ガ多く、全17例ニ對シ71%ヲ占メタ。陽轉發見迄12ヶ月以内ノ例ヲ全數集計スルト、第48表ニ示ス如クデアルガ、併シ、全數デモ21例ニ過ギナイノデ、モトヨリ3ヶ月以内ノ例丈ニ就イテト同様ノ關係ヲ示スハ當然デアル。

第47表 結核性腹膜炎發見ト諸他ノ病竈(其一)
(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄0-3ヶ月ノ例)

諸他ノ病竈ノ有無 (結核性腹膜炎發見時)	結核性腹膜炎	
	實 數	全數ニ對スル%
肺門淋巴腺腫脹	0	
初期變化群	2	11.76±7.82
諸他ノ病竈ヲ認メザルモノ	0	
肋 膜	5	29.41±11.05
其 他ノ病竈ヲ認メザルモノ	7	41.18±11.94
小 計	12	70.59±11.05
ソノ他	0	
諸他ノ病竈ヲ認メナイモノ	3	17.65±9.24
計	17 *(0.89±0.22)	100.0

* ()内ハ最終陰性時ヨリ陽轉發見迄0-3ヶ月ノ者總數ニ對スル%

第48表 結核性腹膜炎發見ト諸他ノ病竈(其二)
(最終陰性時ヨリ陽轉發見迄0-12ヶ月ノ例集計)

諸他ノ病竈ノ有無 (結核性腹膜炎發見時)	結核性腹膜炎	
	實 數	全數ニ對スル%
肺門淋巴腺腫脹	0	
初期變化群	2	9.52±6.40
諸他ノ病竈ヲ認メザルモノ	0	
肋 膜	6	28.57±9.86
其 他ノ病竈ヲ認メザルモノ	9	42.86±10.80
小 計	15	71.43±9.86
ソノ他	0	
諸他ノ病竈ヲ認メナイモノ	4	19.05±8.56
計	21 *(0.56±0.12)	100.0

* ()内ノ最終陰性時ヨリ陽轉發見迄0-12ヶ月ノ者、總數ニ對スル%

第九章ヨリ第十五章マデノ小括

陽轉發見後3ヶ月毎ノ精密檢診成績中、病竈發見側及ビ發見時ニ於ケル諸他竈ノ有無等ニ就イテ概觀スルト次ノ様デアル。

I. 陽轉發見後始メテ發見シタ病竈ノ病型例ノミニ就イテ

a) 最終陰性時ヨリ陽轉發見迄0—3ヶ月ノモノニ就イテハ、肺内病竈全297例中、左側ハ36%デ、右側60%ニ較ベ稍マ少イ。又、兩側例ハ4%デ極メテ低率ヲ示シタ。コノ關係ハ陽轉發見迄12ヶ月以内ノ全例511例ニ就イテモ全ク同様デアツタ。

b) 發見時病型別デハ、陽轉發見迄3ヶ月以内ノ例ニ於テ、肺門淋巴腺腫脹ハ左側26%右側73%兩側1%初期變化群ハ左側40%右側60%デアツタガ、初期浸潤ハ、左側及右側同率デ47%兩側6%又諸他ノ病竈ヲ伴ハナイ肋膜炎ハ左側33%右側61%兩側6%ヲ示シタ。即チ、初期浸潤丈ハ左右大差ナイガ、他ノ病型ハ何レモ右側高率デ又兩側例ハ各病型トモ極メテ低率ヲ示シ雙極性ノ像ニハ遭遇シナカツタ。コノ關係ハ、陽轉發見迄12ヶ月ノ全例ヲ集計シテモ同様デアツタ。

II. 陽轉發見後始メテノ病竈ニ限ラズ、諸他ノ病竈ノ後ニ發見サレタ例ニモ含メタモノニ就イテ

a) 肺門淋巴腺腫脹ニ於テハ、陽轉發見迄3ヶ月以内ノ例デハ、發見時諸他竈ヲ伴ハナイモノ92%ノ大多數ヲ占メ、同伴例少ク、又其同伴スル病竈トシテモ、同側ニ肋膜炎ヲ認メタニ過ギナカツタ。コノ關係ハ12ヶ月以内ノ例ヲ一括シテモ、同様デアツタ。

b) 初期變化群ニ於テモ同様デ、諸他竈ヲ伴ハナイ例ハ、陽轉發見迄3ヶ月以内ノモノ丈ニ就

イテモ12ヶ月以内ノ全例ニ就イテモ何レモ極メテ高率(98—94%)ヲ示シ、又、同伴スル病竈トシテハ、同側ニ發見サレタ肋膜炎ノミデアツタ。

c) 初期浸潤ニ於テモ亦、諸他竈ヲ伴ハナイ例ハ、陽轉發見迄3ヶ月以内ノ例デモ12ヶ月以内ノ全例デモ、比較的多ク(62—67%)シカモノノ中デモ一側ニアルモノ高率(58—62%)占メタ。又、初期浸潤ニ伴ハレタ諸他竈ノ病側ハ、初期浸潤發見側ト同側ノモノガ比較的多ク(62—64%)ヲ示シタ。

d) 肋膜炎ニ於テモ同様デ、其發見時、肋膜炎ノミノ例比較的多ク(54%)シカモ一側ニアルモノガソノ大部分デアル。又肋膜炎ニ伴ハレタ諸他竈ノ病側ハ、肋膜炎發見側ト同側ニアルモノ95—92%ノ多數ヲ占メタ。

e) 肺尖結核竈ニ於テハ、諸他ノ病竈ヲ同伴スルモノ(87—85%)ニ較ベルト少數デハアルガ、感染早期ニ肺尖症ノミノ例ガ一割近ク存在シ得ル事ヲ確メ得タ。又、肺尖結核發見時ニ同伴シタ諸他竈ノ病側ハ、肺尖結核ト同側例ガ極メテ高率(85—83%)ヲ示シタ。コノ關係ハ、各諸他竈全例ノ側カラ左右側別ニ觀察シテモ同様デ、即チ、肺尖竈ガ諸他ノ病變ト同側ニ現レル率ガ著シク多イ。

f) 結核性腹膜炎ニ於テハ、寧ろ反對ニ、其發見時諸他竈ヲ伴フ例ハ極メテ多ク(82—81%)、シカモ肋膜炎ヲ伴フ場合ガ多カツタ(71%)。

稿ヲ終ルニ臨ミ終始御懇篤ナル御指導ト御校閲ヲ賜ツタ豫防會結核研究所 研究部長 岡治道博士並ビニ日本醫療團中野療養所 限部英雄博士ニ對シテ深甚ナル謝意ヲ表ス。